



主催者挨拶

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団
理事長 木村隆昭

毎年、全国各地から多くのジュニア・ユースセイラー、指導者、保護者そして来賓の方々を浜名湖に迎え、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

本年も「YMF Sセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」がスポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、静岡県、浜松市をはじめ多くの団体・企業の皆様方に、ご後援、ご協賛をいただき、そして安全で的確な大会運営に多くのスタッフのご協力を受け、毎年の恒例行事とし「静岡県立三ヶ日青年の家」にて開催できることは喜びに堪えません。

今回も前回に引き続き独立行政法人日本スポーツ振興センターの補助を受け、国内のセーリングスポーツ振興に貢献する大会として開催します。その目的は、自然を相手にするセーリングスポーツを通して青少年の心身育成と、将来を担うセイラー諸君が、仲間と競い合う中で強い心と新しい技を身につける挑戦にあります。本格的なセーリングシーズンに入る前に自らの技量を再確認することで、新たな目標を設定する大会としていただきたいと思います。

近年多くの競技種目で、10代の若い選手が世界で活躍する話題等、メディアを通し見聞きする機会が多くなりました。当財団が実施するスポーツチャレンジ助成事業では、世界の舞台にチャレンジする若きアスリートを応援していますが、夢や高い志を持ってチャレンジするジュニアユース年代も増え、結果を出せる選手が増えています。本大会は、国際レーザー 4.7 級及びレーザーラジアル級の種目で世界選手権国内選考会を兼ね、代表者を選考する大きな役割を担う大会です。本日参加された選手が悔いのない競技を行ない、より大きく世界に羽ばたき、チャレンジするきっかけとなることを願っております。

そして昨年より導入したトラッキングシステムは、より改良され陸上の保護者、関係者の皆様が随時タブレット端末でどこからでも閲覧でき、レース後も選手自身が航跡分析確認できるシステムを採用しています。

また引率の指導者、保護者の方々には、レース後に開催する勉強会にも参加いただき、専門的な視点からの指導の仕方、理論など、交流を通して新たな学びが生まれれば幸いです。

選手諸君には、浜名湖の自然変化に素早く・的確に対応し、日頃の練習成果を十分に発揮し、大会を通じて幅広い年代のセイラーとの交流と友情を育み、そして次への目標を見出されることを願っています。

最後になりますが、本大会開催にあたり、ご支援、ご協力を賜った関係各位の皆様方に厚く御礼申しあげるとともに、参加される選手諸君、指導者、保護者の皆さんそして関係者にとって、絶好なコンディションの中、毎回ではありますが「参加して良かった。素晴らしい大会」と実感することを祈願し、主催者を代表しての挨拶といたします。



歓迎の言葉

NPO 法人 静岡県セーリング連盟
会長 加藤 敏 純

第 27 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖を開催するにあたり、今年もまた全国から数多くのジュニア・ユースの選手、指導者、並びに保護者の皆様をお迎え出来る事を心よりお喜び申し上げると同時に厚く感謝致します。

少子高齢化が国の最大課題とも言われる中、日頃よりヨットに親しみ海での様々な活動を通じて心身を鍛え且つ楽しんでいる少年少女の皆様は国の宝といっても過言ではなく大変貴重な存在と考えております。

是非共、自らの成長の為に浜名湖を、この大会を有効利用し又、全国のセーリング仲間との友情の輪を拡げ、絆を深めることに活用頂ければ非常に嬉しく思う次第です。

そして 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向かって今、各艇種のトップセーラー達は代表選手を目指して世界各地での大会に於いて切磋琢磨し熾烈な競争をしております。本大会に参加されるジュニア・ユースの選手の皆さんもそのトップレベルのレース内容・結果に興味を持ち、近い将来自らもその世界に身を置く事を夢見て日々精進してもらいたいと考えています。

その為に白熱したレースを安全に実施できることを、地元の競技団体としてサポートしてまいります。

最後に本大会開催のためにご支援、御協力を賜った関係各位の皆様に深く敬意を表すると共に大会の成功を心より祈念して、開催地を代表する歓迎の言葉と致します。

ご 挨拶



公益財団法人 日本セーリング連盟
会 長 河 野 博 文

本年も多くのジュニアセーラーやユースセーラーが参加して「第27回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が静岡県立三ヶ日青年の家で、盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。また、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団が、ジュニアセーラーの育成に力を注ぎ、この大会を毎年続けて開催されていることは、日本のセーリング界にとってとても素晴らしいことと思っています。

日本各地から集まってきた若きセーラーの皆さん、日頃から練習してきた成果を発揮してフェアな精神力いっぱい帆走し、素晴らしいレースをしてください。海では互いに切磋琢磨し、陸に上がってきたときは、お互いの友情を育んでください。

いよいよ来年は2020年東京オリンピックです。今年8月にはオリンピックのテストイベント「READY STEADY TOKYO -セーリング」が江の島で開催される他、一昨年に愛知県蒲郡、昨年には神奈川県江の島で開催されたワールドカップシリーズが、今年も江の島で開催されます。また、2020年オリンピック・セーリング競技の国別出場枠もからむレーザー級世界選手権が7月に鳥取県境港で、470級世界選手権が8月に江の島で開催されるなど、今年には日本での国際レースが目白押しとなっています。今回参加されている選手の皆さんも、是非世界のトップ選手の活躍に触れみてください。また皆さんの中から、世界選手権やオリンピック代表など世界のトップ・セーラーを目指して国際的に活躍する仲間たちが育っていくことを期待しています。

終わりに、本大会開催のためにご支援、ご協力を賜った関係各位の皆様には厚く御礼申し上げるとともに、この大会が好天に恵まれ、安全に運営され、参加選手の皆さんが存分に活躍されますことを祈念して、私のご挨拶といたします。